**患者の皆様へ**

2022年2月28日

増田産婦人科・福島大学農学群食農学類・千葉大学附属病院 小児科

　現在、福島大学農学群食農学類松田　幹研究室では、「妊娠中の母親への難消化性オリゴ糖での食事介入が腸内細菌叢と分泌型抗体の多様性および乳児の腸内細菌叢に及ぼす影響」に関する研究を計画しています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では以前、増田産婦人科と千葉大学小児科の共同研究（2012〜2014年　*母乳中の免疫活性物質と便通に対する妊婦へのプレバイオティクス投与の効果の解析）*の診療情報などを利用させて頂きます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

１．研究課題名　「難消化性オリゴ糖での食事介入が母乳抗体および母子腸内細菌叢に及ぼす影響」

２．研究の意義・目的

　難消化性オリゴ糖のひとつであるフラクトオリゴ糖で腸内細菌の栄養となり、ビフィズス菌の増殖促進などにより腸内細菌叢を健全に保つ効果や、母乳などの分泌型IgA（感染防御に関わる抗体）を増加させる作用が知られています。本研究は、妊娠中のヒトへのフラクトオリゴ糖による食事介入が、腸内細菌叢と乳腺で発現する分泌型抗体の多様性（様々な病原体に対する抵抗力の反映）に及ぼす影響を明らかにし、さらに母乳哺育された乳児の腸内細菌叢に及ぼす影響を明らかにすることを目的としています。本研究は、母子栄養や母子免疫など産婦人科学、小児科学において重要な意義を持つと考えられます。

３．研究の方法

以前の研究で採取をさせていただいた、妊娠母体およびお子さんの糞便、母乳を使っての研究を行います。具体的には、①妊娠期の母親および乳児の糞便中の細菌のDNAを用いいて、母体あるいは新生児の細菌叢を調査します。②母乳（初乳）に含まれる抗体産生細胞の遺伝子を使って、IgA抗体レパートリー（多様性の程度の評価）を調査します。

４．個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、匿名化して管理し外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、福島大学農学群食農学類松田　幹研究室の鍵のかかる保管庫で保管します。

５．外部への試料・情報の提供

千葉大学に保存されている匿名化された母体および新生児の糞便・母乳は、研究代表機関の福島大学農学群へ送られ、解析されます。

対応表は、千葉大学附属病院小児科の研究責任者が保管・管理します。

６．研究組織

福島大学農学群食農学類　教授　松田　幹

千葉大学附属病院　小児科　助教　中野　泰至

増田産婦人科　増田健太郎

７．研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省･厚生労働省・経済産業省による「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づいて掲示を行っています。

研究実施機関　　：福島大学農学群食農学類

本件のお問合せ先：福島大学農学群食農学類食品機能学I

　　　　　　　　　教授　松田　幹

　　　　　　　　　024-503-4986

研究代表機関　　：福島大学農学群食農学類

研究代表者　　　：松田　　幹

研究分担者　　　：西尾　俊亮、伊藤　章伍、明治　真結、尾形　慎、吉田光希